

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘 目黒将史	2024年3月	Teams における オンライン会議	<p>テーマ： 地域文化コースにおける卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究ルーブリック作成のための検討会</p>
				<p>実施目的： 2023年度は地域文化コースの完成年度であり、初めてコースにおいて、卒業論文（専門演習）・地域課題解決研究が執筆されることになる。これまで国際文化学科の卒業論文ルーブリックは存在したが、地域文化コースのDPに基づいた新たなルーブリックの作成が求められている。国際文化学科よりの卒業論文の指導実践例は多数経験しているが、地域課題解決研究は初めての経験であり、2023年度の実践例を分析するところから地域文化コースDPに沿った科目ルーブリックの作成を摸索していくものである。</p>
				<p>キーワード：科目ルーブリック、卒業論文（専門演習）、地域課題解決研究</p>
				<p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度のゼミにおける実践例を踏まえた報告会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>実践報告1：馬本勉教授（報告15分＋質疑5分）</li> <li>実践報告2：岡田高嘉教授（報告15分＋質疑5分）</li> <li>実践報告3：中石ゆうこ准教授（報告15分＋質疑5分）</li> <li>全体討論（30分）</li> </ul> </li> <li>・報告会を踏まえ、2024年度の実践につなげていく。</li> </ul>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース (情報分野) (経営情報学部 経営情報学科)	折本寿子 宇野 健 富田哲治	2023年 8月28日～31日	ひろぎんホール ディングス本社 ビル(4F ホール) Hiromalab (ひろしまハイビル)	テーマ：「地域協働演習」における情報技術を活用した地域課題解決の取り組み 実施目的：情報技術を活用した地域課題解決の解決策を提案するためメソッドを理解し、チームでアイデア創出・ビジネスプラン作成の過程を体験することで、コースでの学びへの動機づけを高める。 キーワード：中山間地域、IT・デジタル技術、チーム協働 実施内容： 「地域協働演習」において、地域産業コース情報分野は「中山間地域の抱える課題に対し、IT・デジタルの知識・スキルを活用した課題解決」に取り組むためのプログラムを地元企業（NTT データ中国、ひろぎん HD）との連携により提供する。本学広島キャンパスの複数のコース・分野に所属する学生と広島市立大学の学生でチームを構成し、アイデア創出・ビジネスプラン作成を協働する。各チームの学生は、事前のインプット情報から中山間地域の課題を把握し、アイデア発散・収束のプロセスを通じて解決策の提案を進める。各グループにはメンターが付き、必要に応じて相談ができる体制をとりつつ、課題解決のために提供するサービスの価値・ユーザー体験を踏まえたビジネスモデルの具体化を行う。最終日に発表会を開催し、各グループが検討した課題解決のためのサービスの共有、講評者によるフィードバックを行う。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を軸としたルーブリックを作成し、本プログラムを通じた学生の取り組み状況に対してメンターによる評価、および学生自身による自己評価を実施する。
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース (人間文化学部 健康科学科)	鈴木 麻希 鍛島 秀明 神田 雅子 神原知佐子 古田 歩 松本 茜 松本 拓也 山岡 雅子	通年 第3水曜日 コース会議	Teams における オンライン会議 やメール会議に おける検討と各 授業におけるル ーブリックの配 布	テーマ： 健康科学コースにおける課題探究型地域創生人材ルーブリックの活用の検討 実施目的：本年度は、健康科学コースにおける課題探究型地域創生人材ルーブリックの活用を検討する。本コースの学生に健康科学コースの学生として求められる人材育成目標の到達点を意識してもらうとともに、各学生の自己評価により、経年の成長度を可視化し、学修の改善や期初面談や研究室での学生への指導等に活用することを念頭に置き、全学共通の課題探究型地域創生人材ルーブリックをもとに、健康科学コースの開講科目について、本コースの人材育成目標に重点をおいた課題探究型地域創生人材ルーブリックを作成する。 キーワード：人材育成目標、ルーブリック、学生の自己評価 実施内容： ・座学、グループワーク、学生実験、学外実習など、授業形態に合わせて、ルーブリックに記載する評価項目を検討する。 ・全学共通の課題探究型地域創生人材ルーブリックをもとに、健康科学コースの開講科目について、本コースの人材育成目標に重点をおいた課題探究型地域創生人材ルーブリックを作成する。

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	荻田信二郎 甲村浩之	令和5年12月～ 随時開催	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室等	テーマ：地域資源開発学科の進路についての情報共有とキャリア教育の実践
				実施目的：地域資源開発学科では今年度初めて卒業生を送り出す。新学科の就職先、進学先、取得資格等の情報共有を密に行うことで今後の学生指導、カリキュラムの改善を進める。
				キーワード：就職、進学、資格
				実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 方法：教学科にも協力いただいて情報を提示、より深い内容を各教員から提供し（情報の扱いには注意し）、1～4年時の単位取得、学生本人の取り組みなどの情報を精査しながら、今後の学科での学生教育、指導に活かしていく。また、これまで学科内で行ったキャリア教育の事例も共有する。
	甲村浩之 山本幸広 藤田景子 村田和賀代	通年 毎月第2水曜 2限 他	Zoomによるオ ンライン審議、 第一会議室、フ ィールドC等	テーマ：国際異文化農業体験研修の在り方の検討と実践
				実施目的：ローカルとグローバル双方を学ぶ当学科の同科目について、今年度は2年生ほぼ全員に対して実施できた。これをより充実させるために、フィールド科学実習Ⅰの科目や他科目とどのように連動させていくかを検討していく
キーワード：国際異文化、実習、カリキュラム				
実施内容： 対象：地域資源開発学科教員 方法：ベトナム、タイグエン農林大学等で学生が学んだ内容と実習等の科目についての連動について情報交換し、学生指導やカリキュラムの構築にいかす。				

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	松崎秀紀	通年 毎月第2水曜 2限	Zoomによるオ ンライン審議お よびメールによ る会議	<p>テーマ： 学生に卒業研究を早期に意識させる方法の検討</p> <p>実施目的： 生物資源科学部では3、4年次に卒業研究を行う。しかし、卒業研究とは何かを理解しないまま、漫然と研究室に配属される学生が散見される現状がある。1、2年次学生に、生命科学研究の面白さと、研究とは何かを伝え、学生に卒業研究を早くから意識させ、研究室で何をすべきなのかを考えさせる方法を検討する。</p> <p>キーワード： 卒業研究、課題発見、教育力向上</p> <p>実施内容： 学生に卒業研究、地域課題解決研究を早くから意識させるために、これまで行ってきた1、2年生向けの2つのセミナー（生命環境基礎セミナー、生命科学セミナー）の内容をブラッシュアップする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎セミナーは、これまで、生命科学研究の面白さを各教員が学生に伝える、というコンセプトで行われてきたが、卒業研究についてあまり言及してこなかった。早くから卒業研究を学生に意識させるために、学生に提供している講義と実験実習がどのように将来の卒業研究につながっていくのかを具体的に示す。その効果的な方法を議論、検討する。</li> <li>・これまで、生命科学セミナーでは、各教員の研究テーマを平易に説明し、卒業研究への意識を促してきた。学生の卒業研究へのモチベーションをさらに上げるためには、別のアプローチも必要である。その方法を議論し検討する。たとえば、各教員の研究室に学生を訪問させ、具体的な研究テーマについて学生と教員と一緒に議論し、研究をする意味と方法を深く考えさせる。その過程を通じて、学生の課題発見の能力を伸ばす機会を設ける。</li> </ul> <p>以上を通じて、教員の教育力の向上を図る。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	橋本温	<p>対象日で3-5時 限にかけて授業 を行う。班によ って実施週が異 なる</p> <p>A 班： 10月11日 および 10月25日</p> <p>B 班： 10月4日 および 10月18日</p>	庄原キャンパス 大講義室	<p>テーマ： 環境科学と社会での活躍</p> <p>実施目的： 生命環境科学では、生命と環境が融合した様々な研究内容が行われるとともに社会に活かされている。生命環境科学基礎セミナーでは、生命と環境が関係する様々な面の活きた授業を行っている。本活動では、そのうち環境科学関連で、社会で活躍している公的機関・企業から講師を呼び、より深い理解を行うことを目的とする。</p> <p>キーワード： 行政、企業活動、ディスカッション</p> <p>実施内容： 前置きの後に3、4時限にかけて各講師に講義を行ってもらい、5時限目にグループディスカッションを行う流れである。ディスカッションでは、教員・学生が相互にディスカッションを行うことで理解を深める。生命環境科学基礎セミナー全体での受講数は約100名となるので、機動的に授業を行えるようにA班、B班と分けて、スケジュールを組む。</p> <p>初日： ・エフピコ：総合的プラスチックメーカーである。 ・広島県</p> <p>2日目： ・いであ：環境調査などのコンサルタント企業である。 ・環境省</p> <p>FDに関連する事項： *実践的な授業参観(ピアレビュー)科目として、授業公開を実施した。 *「オリエンテーションゼミ」および2年次科目である「環境科学セミナー」等と連携し環境科学版のポートフォリオである「学習の記録」等を記録し、各学生の環境科学への理解を促進すると共に、その教育効果に関する情報を次年度の教育改善に利用している。 *学生の積極的な授業への関与の試みとして、授業中のFormsを利用した質問等の聴取、授業後のアンケートを行い、その情報を次年度の教育改善に利用している。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部	◎大下由美 池田ひろみ 大古場良太 助川文子 中村文 (事務) 小嶋雅子 勝尾菜弥	①令和6年3月 7日(木)14時40 分～17時10分 ②第1回:令和5 年7月26日(水) 第2回:令和5年 12月13日(水)、 その他依頼があ ったとき	①ハイフレック ス ②主としてオン ライン	<p>テーマ： 学部の教育力の向上を目指して一クォーター制での教育の生かし方</p> <p>実施目的：保健福祉学部の教職員間が協働する機会を作るとともに、保健福祉学科5コース（看護学コース、理学療法学コース、作業療法学コース、コミュニケーション障害学コース、人間福祉学コース）と助産学専攻科で、クォーター制に移行したことに伴う教育上の利点や課題について、教職員と学生が協働で学び合い、保健福祉学の教育力向上を目指す。</p> <p>キーワード： 課題発見、教育力向上、クォーター制</p> <p>実施内容：</p> <p>①について 対象：保健福祉学部の5コース、1専攻科の教員、職員および学生 日時：令和6年3月7日（木）14時40分～17時10分まで（150分） 形式：ハイフレックス。メインは対面形式。グループは、5コース1専攻科の構成員がそれぞれ入るように工夫して、相互ディスカッションの場になるようにする。</p> <p>②について 対象：保健福祉学部の5コース、1専攻科の教員、職員およびSA等の学生 内容：各コースや附属診療センター等から依頼があった研修案内を、研修部門委員で審議し、本年度のFDテーマに沿った適切な内容と思われる研修について、学部FDと位置付け、積極的に参加を促す。 令和5年7月26日(水) 病院前診療(ドクターカー・ドクターヘリ)における医療安全 令和5年12月13日(水) アサーション・トレーニング：コミュニケーションを考えるヒントとして</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	<p>テーマ：①看護学コース DP ルーブリックの活用とカリキュラムマップの作成 ②学修支援・卒業生アドバイザーの運用 ③国家試験対策</p> <p>実施目的：看護学コース DP ルーブリックと教育内容を多方面から分析を行い、効果的な学修環境の充実にを図る。</p> <p>キーワード： DP ルーブリック 学修支援・卒業生アドバイザー 国家試験対策</p> <p>実施内容： 1. 看護学コース DP ルーブリックの分析 ・ DP ルーブリック学生自己評価結果の集計 ・ 看護学コースカリキュラムマップ作成 2. 学修支援・卒業生アドバイザーの運用 3. 国家試験対策 対策①：国家試験模試後のチューター面談 対策②：国家試験対策解剖学セミナーの開催（津森教授に依頼） 対策③：国家試験対策通信配信（2回）</p>
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	実習検討会 渡辺陽子	テーマⅠ 年1回 (令和5年4月) テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ オンライン  テーマⅡ Teams オンライン会議	<p>テーマ：Ⅰ：実習指導担当者との情報共有と協議：昨年度実習の成果と課題・看護実習教育の質の向上 Ⅱ：臨地看護実習教育の充実</p> <p>実施目的：本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る。</p> <p>キーワード： 臨地看護実習、情報共有、看護教育質向上</p> <p>実施内容： テーマⅠ：本学教員と各実習施設の担当者との間で、合同協議会を開催する。協議会では昨年度の実習成果と課題、今年度の実習概要を共有し、より良い看護教育に向け協議を行う。協議のテーマは看護教育の動向を踏まえて決定する。 テーマⅡ：臨地看護実習教育の充実に向けて設定した以下の内容を毎月1回の会議で実施状況の報告や審議事項について検討を行い、コース内で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>令和6年度の実習計画書の作成・令和5年度入学生用臨地実習要綱の作成・実習施設ごとの対応に沿った感染予防対策の情報共有・各実習施設環境の充実のための検討・SNSにおける個人情報取り扱い等の徹底のための方法の検討・「看護技術の卒業時到達レベルと経験録」の集計と活用方法の検討</p> </div>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 看護学コース (看護学科)	看護学コース FD 担当 池田ひろみ	テーマ I 随時開催 テーマ II 毎月 1 回	Teams オンライン会議	テーマ： I：目標・ポリシーに準拠した教育評価の推進に向けたルーブリックの導入および新カリ科目の情報共有 II：教員の研究・教育能力の向上 実施目的：各科目の到達目標の達成に向けた教育方法の検討と刷新、適正な教育評価を目指した取り組みの推進を図る。各教員の研究・教育能力の向上を図る。 キーワード：科目ルーブリック 研究活動 地域活動 実施内容： テーマ I ○ルーブリック作成のための研修 科目ルーブリック（実習 ほか） ○新カリ科目情報共有のための研修 テーマ II ○Dx 教育導入に向けた教育方法・成果の共有 ○研究に関する意見交換会 ○地域活動に関する情報共有



令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	大古場良太	毎週水曜日 昼休み	Teams 内	<p>テーマ：「学生動向の把握と共有」、「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」、「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的：「学生への指導・支援の一貫化を図る」、「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義形態・方向性の共有および改善を図る」、「最新の研究知見をふまえた専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生支援、国家試験、教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生動向の把握と共有」について            新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、対面講義の割合が増加している一方、オンライン講義の併用も引き続き行われていることから、各学年チューターを中心に科目担当や学科教員とともに学生の動向を把握するよう努める。また、各学生の情報を共有することで、指導・支援の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告することとし、配慮が必要な学生については、担当教員を中心に詳細な報告・情報共有を行い、協議する。また、臨床実習では、臨床実習指導者と教員が連携し、学生の実習状況の把握・共有を図り、円滑な実習を過ごせるよう支援する。</p> <p>(2) 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」について            指定規則改正や国家試験出題基準改定の内容に即した実習形態や講義内容にするための専門教育のさらなる充実を図り、講義内容、学生指導のあり方について検討する。コース会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義や個別支援等に活用していく。また、コース会議に合わせて月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味する。さらに、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を継続して実施する。</p> <p>(3) 「各教員の教育・研究領域の紹介」について            各教員の教育・研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、教育・研究能力の向上を図る。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを通して実施する。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法学 コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年10回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (4102会議室 とTeams)	テーマⅠ:学生支援の検討 テーマⅡ:「国家試験対策、教育と研究領域を主題とした発表」
				実施目的: テーマⅠ 学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。 事例検討、テーマⅡ:各教員の教育課題や研究領域における課題を主題とし、最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上、また国家試験の改訂年度のため、これら情報の共有を図る。
				キーワード: 学生指導、臨床実習指導、国家試験指導、アクティブラーナー、研究
				実施内容: コース会議: 学生情報の共有 ① (4月19日) (織田) 4年生チューターによる国家試験前の情報提供 ② (5月17日) (織田) 総合臨床実習 ③ (6月7日) (今元) これまでの研究紹介と今後の研究について ④ (7月19日) (古山) 子どもの作業を基盤とした学校作業療法の試み ⑤ (8月30日) (助川) 「令和6年版国家試験出題基準について」 ⑥ (10月18日) (田中) 研究紹介 ⑦ (11月15日) (藤巻) 「事例からみる作業療法学コース要支援学生の特徴」 ⑧ (12月20日) (4年チューター) 国家試験前の情報提供 ⑨ (1月17日) (森) 研究または教育の報告 ⑩ (2月7日) (1-3年チューター 各10分) 学年の学習支援報告

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	渡辺真澄 中村 文	令和5年4月 ～令和6年3月 (年8回程度)	Teams 上にて オンラインで 実施	<p>テーマ：年間を通じた学科での教育改善活動を目的とし、併せて研究活動、臨床および地域貢献活動の活性化を図る</p> <p>実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている教育活動、臨床および研究、地域における活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。また、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。さらに本活動を通し、教員の研究・臨床能力の向上と研究・臨床活動の活性化を促進させる。</p> <p>キーワード：教育の改善、研究・臨床活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 6月30日（金）（話題提供者：細川 淳嗣） 国家試験対策の状況について 昨年、一昨年度のデータからわかること</li> <li>② 10月30日（月）（話題提供者：坊岡 峰子） 成人になった彼らからのメッセージ ～発達障害児者を支援する際の視点～</li> <li>③ 11月28日（火）（話題提供者：今川 記恵） 医療現場における費用対効果評価</li> </ul> <p>以降、月に1回程度実施予定</p>

令和5年度 県立広島大学 学部・学科・コース等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
助産学専攻科	宮下ルリ子 奥山葉子 金川景子	令和5年4月～ 令和6年3月 (月に1回程度) 4月7日 9:30 5月11日 9:30 6月6日 9:30 7月24日 13:30 8月9日 13:30	三原キャンパス 4315 研究室	<p>テーマ： 教育や実践・臨床現場の効果的な質保証に向けた取り組み</p> <p>実施目的： 学生の学修意欲を引き出すための主体的な授業や参加型学修方法、それらを評価するための方法について検討を行う。また教員の学修指導力の向上や教員自身の実践力を身につけることを目的とする。</p> <p>キーワード： シミュレーション教育</p> <p>実施内容： 社会情勢の急激な変化に伴い、複雑化する諸問題への対応が必要となっています。こうした中、助産学専攻科では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき、学生自らが考え、仲間とともに主体的に学ぶ授業スタイルを大切にしています。教員は専門職としての自律を担保し、また、臨床現場に即した実践能力や教育方法を検討する必要があります。</p> <p>① 入学時の学生の習熟度（プレテスト）について（4/7） ② タスク・トレーニングの検討（5/11） ③ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（6/6） ④ シミュレーション教育後の実習での学び方（7/24） ⑤ シチュエーション・ベースド・トレーニングと評価の検討（8/9）</p> <p>以降、月に1回程度開催予定。</p>